

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスを理解し全職員、施設長で考えた独自の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・玄関入口正面に理念を掲示しておりそれを理解し、日々実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・2ヶ月に1回のホームだよりに毎回理念を載せ、それを家族・地域に配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・運営推進会議を通し町内会長等と話し合い、町内行事に参加したりホーム行事に参加してもらっている。 ・実習生、ボランティアの受け入れを行っている。 ・隣近所の方と挨拶を心掛けている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価、外部評価の意義を理解してもらえ るような取り組みを行い、評価を改善策につなげ ている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	・普段の生活状況、自己評価、外部評価の結果報 告をし、意見をサービス向上に活かしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、運営や 現場の実情等を積極的に伝える機会を作 り、考え方や運営の実態を共有しながら、 直面している運営やサービスの課題解決に 向けて協議し、市町村とともにサービスの 質の向上に取り組んでいる	・自己評価、外部評価以外にもホームだよりを配 付したり、メールで情報をもらったりしてい る。 ・施設長もホームで解決できない問題が出たとき は、市の担当者に相談している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	・外部研修に参加し、その後会議等で伝達講習を 行っている。 ・現在活用している利用者が数名いる。	○ ・勉強会を開きもっと理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	・外部研修に参加し、伝達講習も行い理解し防 止に努めている。 ・マニュアルも作成しており、発見時の対処方 法は把握している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約前から情報をもらったり、契約時も本人・家族と情報交換をし、重要事項説明書等でホームの方針を説明をし同意を得ている。 ・退去後の情報提供もしている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の普段の言動を観察し、話しやすいように関係を築いている。 ・どんな小さなことでも苦情ととらえている。 ・オンブズマンの導入。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・利用料請求時、近況報告の手紙、出納帳のコピー、だよりに異動状況を載せ同封している。また、急変時にはその都度電話報告をしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段の面会時、家族と話しをする機会を設け、意見箱を設置している。 ・家族アンケート、交流会での意見をもらい改善につなげている。 ・契約時苦情受付窓口を説明している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・常時、会議時、施設長、看護師、介護支援専門員、管理者を中心に職員の意見を含め入退所を決定している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・日勤帯では3名プラス看護師、介護支援専門員を配置し、緊急時に対応できるよう連絡網を作成し、人員確保している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・異動等に利用者への影響について理解しており、施設長、管理者、職員と話し合い異動等を行っている。また、利用者にも説明し引き継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の受講内容に合わせ研修を受けてもらい、復命書を提出してその後に伝達講習を行っている。 ・年間研修計画を作成している。	○	・内部研修の計画は作成していないので質を高めたい。 ・内部研修の計画は作成していないので質を高めたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH協会に加入し研修等を通じ他ホームとの情報交換をしている。 ・月に1回の地域ケア会議に参加し、勉強意見交換を行っている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	・施設長は毎日ホームに足を運び、利用者職員の話を聞いてくれている。 ・職員の休憩時間、場所を確保している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・就業規則に準じて勤務しており、年2回健康診断を実施し健康を保つための体制を整えている。 ・資格手当、勤務状況により昇給もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用前には必ず本人、家族と面会をし、両者の思いを把握出来るよう話し合い、居宅介護支援事業所や、介護支援専門員からも情報を提供してもらっている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた際、本人、家族の希望を聞き何を求めているのか、ホームのあり方を説明し他サービスの存在も話している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人・家族から情報をももらった上で、馴染みの物品を持ち込んで、環境の変化に対応できるように説明をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者から励ましの言葉をかけてもらったり共に過ごす時間の中で支え合う関係を築いている。 ・役割を与えながら利用者と職員のバランスを整えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会、手紙、交流会等を通して、家族との交流を密にし、一緒に本人を支え合う関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・入所前から家族との関係や情報を仕入れ、手紙や電話連絡を入れたりしながら、本人と家族の関係を把握するようにしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・希望に応じ、通い馴れている美容院等への外出支援や、年賀状や手紙でも代筆であるが関係を築いている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・相性を考慮し座席の配置をしたり、役割を与えながら、良い関係を保ち、逆にコミュニケーションを上手くとれない方には無理強いをしていない。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・必要に応じて、いつでも相談に対応できる体制であることは説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・普段の関わりから察するよう努め、他家族や、以前担当していた介護支援専門員等から情報を仕入れている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前、後から利用者、家族から情報をもらい、担当の介護支援専門員からフェースシートを提供してもらっている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日の経過記録、申送り、チェックシートを活用しながら全職員で情報を共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護職員を中心に、担当者会議、普段の申送り、面会時の家族からの要望を取り入れ介護計画の作成をしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・短期・長期目標を示し計画を立てているが、状態変化により、話し合いの結果見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日経過記録を記載し申し送り、連絡ノートを通し情報を共有し、支援計画に対しモニタリングを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者の生活の利便性を高めるために自主サービスの開発、実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・町内会長、民生委員との情報交換、警察等へのだよりの配布をし、いつでも連絡をとれるようにし、ボランティアの受け入れをしたり、協力を得られるよう働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じホーム独自で理美容、配食サービス等利用している。	○	・地域の介護支援専門員とも連携を図っていきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・福祉事務所、社会福祉協議会と連携し権利擁護を活用している。	○	・地域包括支援センターとも連携を図っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者、家族と話し合い、かかりつけ医を大切に、入所時には通院支援について話しをし医療機関受診の際、変化が見られた時電話連絡をしている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力機関の医師は認知症について勉強しており、往診時等指導・助言をもらっている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・非常勤ではあるが、看護師2名配置し、24時間体制で管理している。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・環境変化に対応できるよう、入院中は、看護師管理者、職員が顔を出しHP看護師、医師と話し合い機会を設けている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看取りに関する指針を掲げており、看取りアンケートに答えてもらい家族の希望を把握し本人も普段の生活から思いを組み取れるようにしている。 ・協力機関との連携を図っている。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族、かかりつけ医、協力機関と話し合い今後の方針を決め同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・実例、研修を通し環境変化によるダメージについて理解しており、家族、関係者にあらゆる情報を提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・マニュアルを作成しており、又、外部研修等で学び、理念に沿った支援を心掛けている。 ・記録等は目のつかない場所に保管している。	○	心掛けて支援しているが、配慮にかけている場面も見受けられる。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・普段の関わりや、1対1の場面をつくったり表情、態度、言動を観察し、自由に暮らせるよう支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の体調を考慮した上で、希望に沿って支援している。	○	・業務優先にしているところもあり、十分な対応ができていない時もある。常に冷静を保てるくらいの余裕をつくっていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・利用者が好む衣類を選択してもらったり、行きつけの理美容院を利用している。 ・整容の乱れに対しさりげないサポートをしている。	○	・身体状況により、本人の望む場所に出掛けられてない利用者もいるので、工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・普段の関わりから一人ひとりの好みを把握し献立に取り入れたり、全事摂取表を活用し盛付量を変えている。 ・可能な限り一緒に席につき食事のサポートをし、後片づけも一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・一人ひとりの好みがある程度は把握しており献立に取り入れたり、外出時の嗜好品の購入している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・チェック表を活用しながら排泄パターンの把握や誘導、申送り、会議を通し、おむつ、パットの必要性を話し合い、プライバシーに配慮している。	○	・排泄の声掛けに対しプライバシーの配慮に欠けている場面があるので、意識づけをし徹底したい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日、時間帯を決めている。 ・入浴の際は習慣を把握し支援している。	○	できる限り一人ひとりのタイミングに合わせて支援していきたい。(業務体制の見直し)
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・入床時間を決めず好きな時間に寝てもらっている。 ・睡眠パターンを把握し、眠れないときの原因を考え、リズムを整えている。 ・その日の体調に応じた、医療機関と相談している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の生活歴や希望、力量を把握し、一人一人に合った役割や楽しみごとの働きかけを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人と相談し自分持ちとホームで管理する分と分け、金銭所持の大切さを理解し、金銭管理、外出時支払いを行ってもらっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・夏期はほぼ毎日散歩や日光浴を行ったり、希望があれば買物や畑に行ったりしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・月1回の行事を利用したりし、利用者の行きたい場所への計画を組んだりしている。 ・一人ひとりの願いを叶えられるよう、実現に向けている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・プライバシーに配慮し要望があった時、電話や手紙の代筆の支援をしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間を設定（7時～21時）しているが、いつでも面会できる状態であり、落ちついて過ごせるような環境づくりをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についてのマニュアルがあり、外部研修、伝達講習にて理解し、やむを得ず行う場合は家族に説明し同意を得ている。経過記録もつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は施錠せず自由に出入りができ、センサーによるチャイムで察知し、外出時は付き添っている。 ・推進会議メンバー、交番に協力要請している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・構造上、全利用者の居場所を把握できないが、見回りを強化している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・注意が必要な物品に関し、目の届きにくい場所に保管しているが、保管方法についてのマニュアルは作成していない。	○	・マニュアルを作成していきたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・日常生活の観察から想定される事故を検討し、ヒヤリ・ハット、事故報告書を活用し再発防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・マニュアルは作成し、普通救急講習を受講している。	○	・定期的な訓練は行っていないので、内部研修として計画を立てていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に2回避難訓練を行っている。 ・推進会議メンバーに避難経路の載せている書類を配布している。 ・災害時の非常食を用意している。	○	・災害対策マニュアルを作成し、想定範囲を広げ、訓練していきたい。 ・近隣住民にも書類を配布し、地域全体で対策していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・入所前からホームで起こり得るリスクを話し、家族に近況報告の手紙を出している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・基本調査書に既往歴を記載し、一人ひとりの持病を把握している。 ・状態変化を見落とさないよう、日々の観察、記録整理を行い、情報を共有し看護師との連携を図っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々に服薬についてのファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。 ・処方状況、急変時は記録に残し報告情報を共有している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘が及ぼす影響について理解しており、食事メニューの見直しや、活動量の調整、薬の調整をし、チェック表を活用している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・口腔ケアについての理解はしている。 ・声掛けや見守り、一緒に行う等、個々の能力に合わせている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事、水分チェック表を活用しながら一人ひとりに合わせた食事量を提供し、栄養士による献立のカロリー計算をしてもらい、栄養バランスを整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの感染症マニュアルがあり、それに基づいて実行している。 看護師による勉強会を行ったり、市の研修に参加し伝達講習を行っている。 		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のまな板や布巾等のハイターづけをし、冬期間は煮沸消毒を行っている。 各棟で曜日を決め冷蔵庫掃除を行い、期限確認をし、新鮮な食材を使用している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 清潔感を心掛け、玄関に観葉植物を置いたり、一般家庭に近づけるように雰囲気作りをしている。 		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居間と台所がつながっており、料理のにおいや音を感じとれるようになって、花や飾り物を置いたり、季節感を出すようにしている。 		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 昼のスペースがあり、ソファを設置したり、それぞれ、その時の気分で居場所を確保している。 渡り廊下を喫煙場所としている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・入所前から本人、家族へ使い慣れた物品の持ち 込みをしてもらえよう説明している。 ・本人と話し合い、写真や飾り物を貼りつけたり している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・毎朝の掃除時、居室、居間の換気をし、それぞ れ温度、湿度計を設置し管理している。 ・消臭剤の使用もしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・ホーム内はバリアフリーで要所に手すりの設 置、洗面台も1段低い所も設置している。 ・身体変化に応じて、車椅子の使用もしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・混乱や失敗を防ぐために、好みのものを置いた り、飾ったりしている。	○	構造上、同じ形式の扉になっている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	・中庭に小さな畑や花だんがあり、利用者、職員 と一緒に栽培や、草むしりをしている。 ・ベンチも設置しお茶を楽しんだりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1つの目標として、全ての利用者の希望が叶えられるよう努力をしている。